

### ことばの教室について

原田 剛 議員

質問 福生七小に設置したが、現在までの状況は。教室の施設整備の必要があると思うが所見を伺う。

教育長 28年4月に設置したことばの教室（言語障害通級指導学級）は、開級当初10名だった通級の児童が11月末日現在15名となり、さらに増加する見込みである。専門性があり、指導経験もある教員が担任となったことで、指導力を十分に発揮し指導している。早期の開級を最優先としたため施設の状況は必ずしも万全ではない。今後、プレイルームの

整備や教室の拡充、教室の壁の防音性向上等、整備の検討を図りたい。



▲ことばの教室の保護者面談室(福生七小)

### 各商店会等のイベントへの市の関わりについて

幡垣 正生 議員

質問 商業振興のために商店街イベント等を支援していると思うが、その現状と今後の展望について伺う。

市長 新・元気を出せ！商店街事業費補助金の交付により商店会の振興を図り、中小商業の経営の安定と発展、地域経済の活性化に努めている。インターナショナルフェア、産業祭等についても財政支援を行っている。

これらの支援で売り上げや認知度の向上等を期待しているが、市内の商店会の状況は依然として厳しく、

今後も様々な施策を通して商店会を支援していきたい。



▲銀座商業会アート祭の様子

### オスプレイの事故、安全性への疑問について

奥富 喜一 議員

質問 事故が続き、2010年の死者4人の事故はいまだ原因不明である。なぜ全て対策済み、安全だと主張できるのか。その根拠を伺う。

市長 国によれば、MV-22は米国政府が安全性、信頼性を確認した上で量産が開始された。平成24年には国が安全性を検証したが、機体の安全性に特段問題はなく、他の航空機と比べ特に危険な根拠はないとの結論が出た旨説明を受けた。マニュアル改定やパイロットの教育徹底など対応を図っているとのことだが、

十分な根拠とは考えておらず、引き続き国に安全性の説明を求めます。



▲MV-22オスプレイが飛行する様子(yokota johoブログ)

### 公民館活動の一層の充実・発展について

池田 公三 議員

質問 福生市公民館運営審議会の答申をどう受けとめ、生かすのか。利用者交流の場としての到達点、課題をどう考えるかを伺う。

教育長 答申は、本市ホームページや市内公共施設等で閲覧可能。利用者交流の場として、各種事業の多くを市民が主体的、自立的に運営し、出会いと交流の輪を広げる一方、参加者の高齢化と固定化が課題であり、改善や提言の具現化を進める。本市公民館は、様々な地域課題の解決を図る中で、市民とまちづくりを進め

てきた。答申を検証し、よりよい公民館、利用者交流の場の実現を図る。



▲公民館まつりの様子

## 行政視察報告

全国の市町村の特色ある施策を今後のまちづくりの参考にするため、視察を行っています。

今回は、常任委員会の先進地視察を報告します。なお、視察報告書の本文を市議会ホームページに掲載しています。

#### 建設環境委員会

視察目的 ①大垣駅南街区市街地再開発事業について ②東海太田川駅西地区第一種市街地再開発事業について

視察先 ①岐阜県大垣市 ②愛知県東海市  
視察日 平成28年10月12日(水)～13日(木)



▲岐阜県大垣市再開発事業を視察

①大垣駅南街区市街地再開発事業は、宅地所有者及び借地権者等で大垣駅南街区市街地再開発組合により進められた。大垣駅は、JR東海道本線、養老鉄道、樽見鉄道を結束しJR名古屋駅まで約30

種連携研修等に注力している。平成23年4月の在宅医療支援センター開設後、在宅医療救急システムもスタートさせ、24時間365日の救急医療体制を構築している。



▲三重県伊賀市の「地域包括ケアシステム」を視察

#### 市民厚生委員会

視察目的 ①「在宅医療支援センター」「在宅医療救急システム」事業について ②「伊賀市が目指す地域包括ケアシステム」事業について

視察先 ①三重県名張市 ②三重県伊賀市  
視察日 平成28年10月26日(水)～27日(木)

①名張市は、地域の医療資源が乏しい中、急速な高齢化に対応するため、人的ネットワークの構築を喫緊の課題とし、多職

#### 総務文教委員会

視察目的 ①防災教育について ②英語教育について

視察先 ①岩手県花巻市 ②岩手県胆沢郡金ケ崎町  
視察日 平成28年10月27日(木)～28日(金)

①花巻市は岩手県の内陸



▲岩手県金ケ崎町立金ケ崎小学校の英語教育を視察

に位置しており、津波等の被害はなかったが、沿岸部の被災者の支援、受け入れ等により子供たちも被災の大変さを感じたようである。県策定の震災副読本に沿った復興プログラムで教育課程の見直しを行った。特に、市内の山間地等地形の違いを考慮し、地域ごとに住民と連携した防災訓練等を行い成果を上げている。

当市でも、小学生からの英語教育の取り組みを始めたが、大いに参考となった。